

企 画 名：農場から食卓までを通じたネオニコフリーの実践に向けた意識調査と啓発

団 体 名：公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク

1. 報告要旨

ネオニコチノイド系農薬の削減には、生産者・流通加工業者・消費者それぞれの意識を向上させることが重要と考える。そのため、ネットワークを活用してアンケート式意識調査を行ない、認知度や普及の可能性を調査・分析し、その結果をシンポジウム等にてフィードバックした。

①生産者・流通加工業者・消費者を対象とした意識調査の実施

ネオニコチノイド系農薬の認知度、影響や危険性の認知度、購入の際の意識などについて回答するアンケートを実施。さまざまな生産者・流通加工業者・消費者団体等に協力を仰ぎ、811名より回答いただいた。（うち生産者121名、流通加工従事者94名）

②意識調査の集計・分析

生産者・流通加工業者・消費者それぞれの意識の違いなどについて回答をまとめた。分析は東北大学農学部の学生に協力を得て実施。ネオニコチノイドという言葉が「聞いたことがない」が58%、ネオニコチノイド系農薬の一種の食品中の残留基準を緩和したことは90%が知らなかったと回答し、認知度の低さが明確となった。

③集計結果報告

アンケート回答者や協力団体に対して、シンポジウムの案内と共に調査結果を簡潔にまとめ報告した。

④ネオニコチノイド シンポジウム「家庭にも潜む 話題の新農薬ってなあに？～知らずに食べていませんか？～」の開催（2016年2月11日）

認知を広げ、アンケートの結果を報告するため、シンポジウムを開催した。「知らずに食べていませんか？ネオニコチノイド」の著者水野玲子氏を講師に招き、ネオニコチノイド系農薬の基礎知識や状況についての講演、アンケート分析結果の解説、ネオニコ不使用の取り組みを行なっている生産者・流通加工業者の事例紹介、会場全体のディスカッションを行った。県内外より81名が参加し、会場では活発な質問が出され、これから何ができるのかを考えた。

⑤プロジェクト結果報告

アンケートの分析結果やシンポジウムの内容を活動報告書にまとめ、アンケート協力者や協力団体にフィードバックした。また一般向けには、アンケート結果およびネオニコチノイド系農薬の認知と海外と日本の動きの違いなどについてまとめたクリアファイルを作成した。

ネオニコチノイド系農薬の認知度は低い状況にあり、ネオニコの危険性を認知している人は購入を避ける傾向にあるものの、何をしたら良いかわからないとの回答も多く、認知を広げると共に具体的な行動の提案も必要である。ネオニコフリーを実現するためには、生産者が使わないことが重要であるが、その生産者の認知度も高くはなく、生産者への働きかけを試みる必要と考える。今回のアンケート結果を活かし、他団体と共同して引き続き継続してネオニコフリーに向けて取り組んでいく。

2. 成果物

1. [『農場から食卓までを通じたネオニコフリーの実践に向けた意識調査と啓発』2015年度調査活動報告書](#)
2. [MELON 情報紙](#)（2015年9月号調査開始、2016年1月号アンケート結果概要、4月号シンポジウム）
3. クリアファイル

4. 「MELON ネオニコシノジウム 農業と家庭でもネオニコ農薬の規制を～川内のシノジウムで強調」NPO 法人環境保全米ネットワーク情報紙『こめねっと』第 89 号 (2016.3.31)
5. [MELON ブログにてシノジウムの開催報告](#) (2016.2.21)